
缶コーヒー

七瀬なな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

缶コーヒー

【Nコード】

N0758D

【作者名】

七瀬なな

【あらすじ】

恋と仕事にストレス気味のOLに一服の清涼剤

ここんどこ仕事がつつくて。

恋人とは忙しくてちつとも会えないし。

仕事が忙しいっつってんに、浮気してるんだろつとか疑われて。

そんなこと思いつきもしなかったのに、疑われた途端本気で浮気したくなる。

実際不可能なだけだね、時間的精神的にそんな余裕なし。

こういうときはだまって頭のひとつもなでてくれたらよさそうなものなのにさ。

あのわからずやめ、もうホントに捨てちゃうゾ。

浮気というより、そうだな、ポイしたくなるね。

抱擁がほしいときに束縛なんかされたら頭にくるよ。

イライラしてカリカリして忙しいうえにそんなこんなで疲れちゃって甘いものが欲しくなつて。

ふだんあんまり飲まないんだけど、仕事帰り。

勤め先の前の自販機で缶コーヒーを買ってみた。

ひとくち、ふたくちは美味しく飲めたんだけど。

なんだか甘つたるさが耐えがたくなつて。

半分くらい残つてるのを排水溝へ捨てようと缶をかたむけたら。

「それ、捨てちゃうんすか？」

声のほうを向くと、顔見知りの運送屋さんが。

会社の荷物を取り扱つて、まあ挨拶くらいはする仲。

「捨てるんだつたら、おれにくれませんか？」

……は？

「……これ、飲みかけなんだけど」

「ああ、全然いいですよ」

……そんなものなのかな。

戸惑いながらも缶をさしだすと、彼は受け取って、なんの躊躇もなく口をつけて。

あたしの唾液が、まあほんの少しだけどまざってるコーヒーを、のどを鳴らしてのんでる。

上下するのどぼとけを、不思議な生物を見るような目つきでなめる。

このひと、よっぽどのどがかわいていたんだろうか。

いま手持ちの小銭がないんだろうか。

よく知らない人間が飲み残したものを飲むなんて、ちょっと自分では考えられないから。

のどぼとけにその答えが書いてあるわけではないんだけども、なんだかじつと見つめてしまった。

そこばかり見つめてしまったのは。

ちょうど少しみあげたところに、のどぼとけがあったから、でもある。

「ごちそうさまでした」

軽く吐息をもらして、彼はあたしに空き缶を手渡そうとする。

そこに空き缶入れあるから自分で捨てなさいよ、と言っこともできただけど。

あたしはそれを受け取った。

彼はそれ以後も会社の荷物を運びに来て、伝票を受付にいる私に渡す。

「まいどー」

「あ、どうもー」

それだけの関係でも。

このひとはあたしの唾液が少しだけどまざったコーヒーを飲んだ男だ、と。

脳か心が魂だか知らないが、あたしの奥は、そう認識している。

(後書き)

読んでくれて、ありがとうございました。
私にしては珍しい短編そして現代もの、でした(*^^*)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0758d/>

缶コーヒー

2010年10月15日18時33分発行